

教職課程自己点検・評価シート

- 3; 適切に実施している
- 2; 十分に実施していない・改善検討の必要がある
- 1; 実施していない・改善の必要がある

評価項目1; 教育理念・学修目標

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)
1-1	全学教職課程 研究科・学科等	教員の養成の理念および当該理念を達成するための学修目標が明確な形で設定されているか	教職課程履修の手引き 資格課程(教職課程)webページ	3
1-2	全学教職課程 研究科・学科等	学修目標について、学生や採用権者の意見の考慮、所在する都道府県教育委員会の策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか	教職課程履修の手引き 資格課程(教職課程)webページ 『教職支援センター紀要』「教職課程における学修状況」	3
1-3	全学教職課程 研究科・学科等	教職課程での学修成果や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか	教職課程履修の手引き 資格課程(教職課程)webページ 『教職支援センター紀要』「教職課程における学びの振り返り」	3

<1の報告事項>(現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)

(現在の状況)教員の養成の理念を達成するための学修目標は適切に設定され、大学HPやシラバス、ポータルサイトなどで公開されている。教職課程のカリキュラムマップ・ツリー等は、教職課程全体を通じた学びの見通しを得るために教職ガイダンスで周知し、Teamsで履修学生に公開している。都道府県教育委員会からゲストスピーカーを招いて、求められる教師像について研修する場を設けている。また、教員採用試験の大学推薦枠の検討過程において、教員育成指標との関係について点検している。4年生終了時に「教職課程における学びに関する満足度調査」を実施して学生の意見を収集し、本学教職課程の点検に資している。教職課程での学修成果について、「教育実習の自己評価」・「教職実践演習における課題認識」・「教職ポートフォリオ(履修カルテ)における教員としての資質・能力の自己評価」による質的・量的分析を行い、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえつつ点検を行っている。

(評価できる点)学生が教職関連の情報把握漏れなく出来るよう、ポータルやTeamsを活用し、内容・デザイン・時期等、配慮の行き届いた働きかけを行っている。教職課程での学修成果について、質的・量的な分析を行っている。「教職課程における学びに関する満足度調査」によって、学生の意見を把握している。

(改善を要する点とその改善方策・改善状況)
教職課程の情報は、ポータルやTeamsでの十分なものになっているが、HPの情報は改善の余地があり具体的なデザインを検討が必要である。大学院における学修目標をはじめ専修免許に関する情報の公開について、具体的に進める必要がある。

評価項目2; 授業科目・教職課程の編成及び実施

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)
2-1	全学教職課程	複数の教職課程における授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成が適切に行われているか	教育に関する基礎的科目等の教育課程表	3
2-2	全学教職課程 研究科・学科等	ICT環境、模擬授業用の教室、関連図書など、教職課程の学びに必要な施設・設備が整備されているか	教科用図書の整備 設備一覧	3
2-3	全学教職課程 研究科・学科等	法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか。教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか	各学科の「教科及び教科の指導法に関する科目」の教育課程表	3
2-4	全学教職課程 研究科・学科等	教員として身に付けることが必要なICT活用指導力の全体像に対応して、各科目間の役割分担が適切に図られているか	シラバスの講義計画	3
2-5	全学教職課程 研究科・学科等	キャップ制をふまえたうえで、卒業までに修得すべき単位を有効活用して特色ある教職課程教育を行っているか	キャップ制に関する説明資料 教育課程表	3
2-6	全学教職課程 研究科・学科等	学修成果や自己点検・評価の結果等をふまえて教育課程の充実が図られ、適切な見直しが行われているか	教職課程での学びに関する満足度調査 教職課程自己点検評価シート 『教職支援センター紀要』「教職課程における学修状況」 「教職課程における学びの振り返り」	3
2-7	授業	シラバスの作成状況 シラバスに教職にかかわる授業科目の目的や到達目標・内容が明確に設定されているか 授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容が記載されているか	シラバス シラバスの書き方	3
2-8	授業	到達目標に応じて、アクティブラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか	シラバス	3
2-9	授業	学修成果や授業改善アンケートの結果をふまえて個々の授業科目の適切な見直しが行われているか	授業改善アンケート	3

2-10	授業	教育実習、学校体験活動、教職実践演習が事前事後指導を含め適切に行われているか ・教育実習を行ううえで必要な履修要件を設定しているか ・地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けているか	当該授業科目のシラバス 教育実習・学校体験活動の手引き 『教職支援センター紀要』『学校体験活動報告』・『教育実習報告』	3
------	----	---	---	---

<2の報告事項> (現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)

(現在の状況)教職課程では教職支援センターにて必要資料の整備、ICT環境では学内アプリの使用やメディア授業を実践している。また、アクティブラーニングを推進するとともに、地域の教育委員会や学校と連携を取り学生が最新の情報の理解の機会を設けている。各学科でキャップ制を設け、専門演習に教科教育学を位置づけ適切な履修を促している。シラバスは、本学が定める「シラバスの書き方」に記載のシラバス作成基準に沿って記載されており、「コア・カリキュラム」を実現するものになっていることを点検・確認している。教職課程での学修成果について、「教育実習の自己評価」・「教職実践演習における課題認識」・「教職ポートフォリオ(履修カルテ)による教員としての資質・能力の自己評価」を対象に質的・量的分析を行っている。また、4年生終了時に「教職課程における学びに関する満足度調査」を実施して学生の意見を収集している。これらを基に明らかになった課題や会情勢・教育環境の変化等を踏まえて、教職課程の授業内容そのものや環境整備の改善を図っている。教育実習、学校体験活動、教職実践演習は、事前事後指導を含め、個々の学生の資質・能力の現状や課題に即して、適切に行われており、成果の具体として『教職支援センター紀要』に「学校体験活動報告」・「教育実習報告」を掲載している。

(評価できる点)教職課程での学修成果について「教育実習の自己評価」・「教職実践演習における課題認識」・「教職ポートフォリオ(履修カルテ)による教員としての資質・能力の自己評価」の分析によって可視化し、「教職課程における学びに関する満足度調査」を実施して学生からの意見・評価を集約しており、これを『教職支援センター紀要』へ掲載して成果と課題が共有されている。教育実習、学校体験活動、教職実践演習はこの成果の具体を、『教職支援センター紀要』で公開している。

(改善を要する点とその改善方策・改善状況)
必修科目と教職科目との時間割日程の重複を避ける必要があるため調整などの対応を継続していく。また今後もICTの有効活用を進め、教職課程としては教育現場に則したアプリの導入も必要と考える。教職課程はすべてアクティブラーニング科目であると位置づけ、今後学生に授業内の手法などで情報提供を行っていく。

評価項目3;学修成果の把握・可視化の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)
3-1	全学教職課程	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	成績評価のガイドライン (全学共通のものを適用)	3
3-2	全学教職課程 研究科・学科等	教員養成の目標の達成状況を明らかにするための確認指標が適切に設定されており、教職実践演習に向けて「教職履修カルテ」を適切に活用できているか	教職履修カルテ コメント入力例	3
3-3	授業	成績評価の状況 ・各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的または定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・標語に反映することができるか ・公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか	シラバス	3

<3の報告事項> (現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)

(現在の状況)成績評価のガイドラインに則って、各教職科目の到達目標及び成績評価規準について、シラバスに明記している。

(評価できる点)教職履修カルテの確認指標を設定を明示し、各学生に合わせた教職履修課題の個別の指導にあたっている。

(改善を要する点とその改善方策・改善状況)学生自身の「履修カルテ」の活用について、効果的な指導を検討する。教育政策や社会的な教育課題の動向を踏まえ、シラバス及び教職履修カルテの適切な改善を継続的に行う。

評価項目4;教職員組織の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)
4-1	全学教職課程	必要専任教員数を充足しているか 授業担当者がその授業科目を担当するのにふさわしい研究業績を有しているか 実務経験を有する教員を配置しているか	担当教員交代・任用時の審議議事録 教職課程変更届	3
4-2	全学教職課程	教職課程を適切に運営するための組織を設け、必要な教員・職員を配置し、役割・機能を明確化しているか	組織図、教職支援センター規程 教職支援センター運営委員会規程	3
4-3	全学教職課程	教職課程全体の質的向上につながるFD・SDが行われているか	「大学教務実践研究会教務課題検討 フォーラム学教務実践研究会教員免許 事務担当者講習会」資料 「第3回京私教協教員免許事務勉強会」 資料 『教職支援センター紀要』『研究報告・論文』	2

<4の報告事項> (現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)

(現在の状況)必要専任教員数を充足している。非常勤講師を含む教職科目の担当教員については、業績審査を行い、公募制で採用している。実務経験を有する教員は、経済情報学科4名、日本文学科2名、美術学科18名、教職支援センター1名を配置している。教職支援センターを設け、組織図・規程によって役割・機能を明確化し、教職課程の運営にあたっている。教職課程独自にFDの設定はしていないが、全学的なFD研修会へ参加するなどの方法をとっている。外部の講習会や勉強会へ参加して得られた情報について、教職支援センターで共有できるようにしている。

(評価できる点)専任教員数を充実させた。教職支援センターが、教職課程の組織図、規定に基づいて、円滑に運営されている。教員採用等出口サポートにおいて、キャリアサポートセンターとの円滑で有効な組織的連携を行っている。『教職支援センター紀要』に、教員の教育関係の研究報告・論文を掲載し、公開しており、互いの研鑽に資している。

(改善を要する点とその改善方策・改善状況)今後の各学科の人事計画において、必要専任教員数の充足を継続するものとする。継続的に教職支援センター運営委員会の業務内容の充実と円滑な運営を図る。教職課程独自のFDについて、非常勤講師の参加を含め、検討していく。積極的に外部の教職課程運営に関する研修を参加し、学内の情報共有や研修を通して、教育政策や社会的な教育課題の動向を踏まえた教職課程運営の適切な改善を継続的に行う。

評価項目5:情報公表の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)
5-1	全学教職課程	法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行われているか	資格課程(教職課程)webページ	2
5-2	全学教職課程	必要な資質能力を備えた学生を育成できているか、エビデンスとともに説明できるか	『教職支援センター紀要』『教職課程における学修状況』『教職課程における学びの振り返り』	3
5-3	全学教職課程	根拠となる資料やデータを示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の結果を公表することができるか	点検評価シート 資格課程(教職課程)webページ 教職支援センター紀要掲載情報	3

<5の報告事項>(現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)

(現在の状況)法令に定められた情報公表が行われている。また自己点検評価シートを作成し、公開した実施要領に基づき教育の内部質保証の点検を行っている。教員就職率等の基礎資料を『教職支援センター紀要』で報告している。学生の教員としての資質・能力の獲得について、教育実習の自己評価、「教職実践演習」(4年後期)における課題認識、教職ポートフォリオにおける教員としての資質・能力の自己評価をもとに検証し、『教職支援センター紀要』で公開している。

(評価できる点)教員就職率等の教職課程における学修状況を、各年度の『教職支援センター紀要』で継続的に公開できている。学生の教員としての資質・能力の獲得について、質的・量的に分析して可視化し、『教職支援センター紀要』で公開できている。

(改善を要する点とその改善方策・改善状況)教職課程における学びの振り返りについて、仕組みや分析方法は整備されているが、今後データを蓄積して経時的な分析したい。教職課程の内部質保証の公開の仕方について、検討が必要。

評価項目6:教職指導(学生の受け入れ・学生支援)の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)
6-1	全学教職課程	教職課程に関する積極的な情報提供ができているか	教職ガイダンス資料 Teams「教職課程」チャンネル	3
6-2	全学教職課程 研究科・学科等	個々の学生の教職に対する意欲をふまえつつ、履修指導を行っているか	教職履修カルテ 学生の入力と教員のコメント例	3
6-3	全学教職課程	学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか	キャリアサポートセンターの 学内説明会・報告会案内等	3

<6の報告事項>(現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)

(現在の状況)教職支援センター運営委員会委員が学年別の「教職ガイダンス」を年2回各学期始めに行っている。またポータルやTeamsを活用して、各種ガイダンスや教員採用試験報告会等の案内を行い、また教職に関する各種情報の提供を行っている。教職ポートフォリオ(履修カルテ)を活用して、教職支援センター運営委員会委員の教員が履修指導を行っている。キャリアサポートセンターと連携し、大学推薦情報や臨時的任用講師募集説明会などの情報を配信している。また、大学所在地の県教育委員会による学内説明会を開催し、学生に参加を呼びかけている。翌年教職に就く学生を講師とした「教員採用試験報告会」を12月に開催し、教員採用試験に向けた取り組み方について1~3年生の研修の場を設けている。

(評価できる点)ポータルサイト及びTeamsを通じて、各種ガイダンスや教員採用試験報告会等の案内を行い、教職課程に関する各種情報提供を行い、学生が確実に把握できるよう努めている。また、大学推薦情報をはじめとする教員採用試験などについて、キャリアサポートセンターと連携し、必要情報の周知に努めている。教職ポートフォリオ(履修カルテ)への学生の入力を指導し、学年はじめには点検とフィードバックを行っている。

(改善を要する点とその改善方策・改善状況)教職ポートフォリオ(履修カルテ)の活用について、4年次における教員としての資質・能力の振り返りには十分に活用しているが、それまでの各学年の過程で学生の課題意識と目標意識を明確にした学びになるよう指導を継続する必要がある。キャリアサポートセンターからの定期的な情報集約の仕組みがありチューター教員が学生のキャリアの把握に努めているが、学生からの報告をより確かなものにしていきたい。教員採用試験の大学推薦について、キャリアサポートセンターと教職支援センターが連携して推薦者の決定から応募まで手続きが整備され問題なく運用されている。卒業後に教職への採用があった場合の情報収集窓口を設けているが、卒業生からの報告を増やす手立てが必要。

評価項目7:関係機関等との連携の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)
----	-----	------	------------	-------------

7-1	全学教職課程	教員の採用を担う教育委員会等と連携・交流を図り、教育課程や学生指導の充実につなげることができるか	学内説明会資料等 研修における学生の感想	3
7-2	全学教職課程 研究科・学科等	教育実習・学校体験活動・学校ボランティア等を実施する学校と連携・協力を図り、実習や体験活動の適切な実施につなげることができるか	実習校へのアンケート 『教職支援センター紀要』『ボランティア活動』『学校体験活動報告』『教育実習報告』	3
7-3	全学教職課程 研究科・学科等	学内外の諸機関との連携のもと、教育課程を充実させるために多様な人材をゲストスピーカー等として活用することができるか	報告会資料等 研修における学生の感想	3

<7の報告事項> (現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)

(現在の状況) 翌年に教職につく学生を中心とした報告会を12月に行っている。教育委員会職員による教員になるための学内説明会を12月に行っている。「教職実践演習」及び「教育の方法と技術・教育におけるICT活用」、「教師論」の授業で教育委員会職員をゲストスピーカーとした研修を実施している。また、「介護等体験」事前学習では、社会福祉協議会職員をゲストスピーカーとして、福祉現場の知見から学ぶ機会を設けている。教育委員会と連携して行う行事に際しては、準備から振り返りまでの過程で、教育委員会職員と意見交換を行っている。教育実習校・学校体験活動実習校と実習前の協議・実習中の訪問指導・実習後の意見収集によって、連携・交流を継続して行っている。『教職支援センター紀要』に学生の「学校体験活動報告」及び「教育実習報告」を掲載し、実習の成果を公開しており、これを実習校にも届けている。

(評価できる点) 教育委員会と連携して、学生が教育委員会関係者から教員の仕事の意義や実際に学ぶ機会を実現している。教育実習校・学校体験活動先の学校等との連携・交流を、機会を捉えて積極的に行っている。『教職支援センター紀要』に、学生の「ボランティア活動」「学校体験活動報告」「教育実習報告」を掲載し、実習の成果を実習校と共有することができるようにしている。

(改善を要する点とその改善方策・改善状況) 学生の教員としての資質能力の育成をさらに充実させるため、引き続き教育委員会との連携して、内容の充実を図る。

評価項目8; その他必要と認められる事項

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価 (3,2,1)

<8の報告事項> (現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)

--	--	--	--	--